

第8回部会の活動報告

■第8回部会

令和5年12月15日、21日、22日に対面とオンラインの併用形式で部会を開催した。

<学術調査部会>

日時：令和5年12月15日(金) 13:00~15:00

出席者：26名(個人11名、団体・法人5(6名)、行政6(11名) ※重複2名)

(1) 作業チームの報告

中村崇部会長より、12月8日に開催された第6回学術調査部会作業チームの概要が報告された。サンゴ群集修復事業などにおいて今後の白化対策に事前に備えるため、高水温の予測を活用できないか、というテーマで沖縄気象台にご参加いただいた。具体的には、「白化現象をもたらした気象要因の整理」や、「白化予測の高精度化」、どの時期にどのような予測レベルになったら白化対策を進める準備を始めるか、など「判断の指針となるような対応フローの検討」について、幅広く討論を行ったことが報告された。

■学術調査部会作業チーム

日時：令和5年12月8日(金) 10:00~12:00

出席者：13名(個人3名、団体・法人1(2名)、行政2(9名)) 重複1名

- ・サンゴ群集修復事業で造成した幼生供給拠点を対象として、現時点で対応が可能な白化現象の緊急対策については、遮光手法や深場への移動といった手法が検討されている。前もってどの程度の対策を講じる必要があるか判断するためには、高水温の予測などを活用することが考えられる。
- ・そこで、今回の具体的なテーマとしては、まずは「白化現象をもたらした気象要因の整理」をしてどのような気象要因が白化現象への影響が大きいかを議論したうえで、「白化予測の高精度化」の可能性について検討し、どの時

期にどういう予測レベルになったら白化対策を進める準備を始めるか、など「判断の指針となるような対応フローの検討」についても議論を行った。

(2) 行動計画の見直しについて

事務局補助の沖縄県環境科学センターより行動計画見直し案の初稿について、環境省石垣自然保護官事務所の山本上席自然保護官より行動計画の重点項目について説明があった。参加委員の意見及び議論について、概要は下記のとおりである。

○ スローガンについて

- ・ 地域自然資産法に則った考え方であることがわかるように変更してほしい。
- 普及啓発・適性利用部会長の大堀氏及び事務局で変更案を作成した。協議会までに ML で周知し意見を募る。

○ 未来の石西礁湖のイメージについて

- ・ 描かれているのは、未来の姿とは乖離しているように見える。例えば、サバニをダイビング船にする、エコツーリズムを追加するなどマイナーチェンジできるか。
- イメージは全体構想で示しているもので、行動計画見直しのなかでは絵そのものを変更することは難しい。ただ、未来のイメージとは乖離しているため、協議会設立当初に目指していたかつての石西礁湖のイメージとして、タイトルを「1972 年当時の石西礁湖のイメージ」と変更したい。

○ 短期目標について

- ・ 目標年が過ぎているが、行動計画にそのまま残すのか。
- 達成していないため、そのまま残す方針である。何年当時に作成された計画という注釈を入れる。

○ 重点項目について

- ・ 成果目標は毎年の目標を設定するのか。数値目標とする場合には慎重に設定した方がよい。
- 進捗を確認し、最終評価は 5 年というイメージにする。数値目標は関係機関と協議のうえ設定するかも含めて検討する。

○ 重点項目 2 (持続可能な観光の推進)

- ・ 対象は小中高生だけでなく、マリンレジャー事業者のリテラシーを底上げしリテラシー向上がビジネスに直結する流れにすることが重要である。

- ・観光客への普及も必要ではないか。また、アクションプランとして、実施方法や主体の具体化が必要である。

○ 重点項目 3（普及啓発の推進）

- ・サンゴの話ばかりで、陸域からの普及の話が入っていない。山と陸の繋がりを重視してほしい。

< 海域・陸域対策部会 >

日 時：令和 5 年 12 月 21 日（木） 15：00～17：00

出席者：21 名（個人 6 名、団体・法人 5(7 名)、行政 4(9 名) ※重複 1 名)

(1)（仮称）陸域負荷対策ワーキンググループの進捗報告

環境省石垣自然保護官事務所の山本上席自然保護官より、9 月 12 日に開催されたワーキンググループの様子が報告された。栄養塩が陸の上流から下流にむかって海へ流出するそれぞれの段階別の課題に対して、4つのアプローチで解決を図っていくことが報告された。1.2. 畜産由来、農地由来のリンの流出をいかに減らせるのか、その対策にかかる研究やモデル的な検証、3. 河川や地下水から流れてくるリンの現状把握のためのシミュレーション、4. 海域に流出した石灰質の砂に吸着した蓄積型リンがサンゴにどのように影響を及ぼすかの研究などについて進捗状況が報告された。

(2) 行動計画の見直しについて

事務局補助の沖縄県環境科学センターより行動計画見直し案の初稿について、環境省石垣自然保護官事務所の山本上席自然保護官より行動計画の重点項目について説明があった。参加委員の意見及び議論について、概要は下記のとおりである。

○ サンゴを取り巻く状況の記載

- ・オニヒトデ大発生 of 要因について、一部誤解をまねく記載もあるので修正した方がよい(もっぱら赤土ではなく栄養塩が関係している)。

○ 重点項目 1（陸域負荷の低減）

- ・竹富町とも連携していくことを希望する。
- ・リンの流出について、自然由来の地下水の量、地下水の使用量、地下水マップなどを調査、整理してほしい。
- ・蓄積型を含め、海の負荷レベルを定量的に示すことは可能だが、実行性の確

保は当面のところは難しいので、海域濃度を目標値として、達成できるような基本構想プランを作ることが重要であろう。

- ・ 農業に関しては、地域循環共生圏の概念を共有し、儲かる農業を大前提に、産業構造の包括的な分析が必要である。

○ 重点項目 2 (持続可能な観光の推進)

- ・ ガイドラインを実践してもらえるレベルに持っていく普及啓発が必要である。具体的には、何らかのインセンティブか、西表島の竹富町観光案内人条例のような強制力、あるいはこの両方が必要である
- ・ ガイドラインに罰則をつけることは難しいと思う。観光協会や石垣市が、自然を守っていないような業者は利用するのをやめようと呼びかける方向がよいだろう。

<普及啓発・適正利用部会>

日 時：令和 5 年 12 月 22 日（金） 10：00～12：00

出席者：25 名（個人 4 名、団体・法人 8(10 名)、行政 6(13 名) ※重複 2 名)

(1) 石垣市のサンゴ礁保全の普及啓発業務の報告

大堀部会長より、石垣市の業務で、1 学年 100 名以上の中規模校を対象にしたサンゴ学習の実施状況について報告された。また、石西礁湖という言葉の普及を目的とした「石西礁湖」飾り文字コンテストの投票結果、人材育成のための指導者研修会がフィールド、座学で 1 回ずつ実施されたことが報告された。最後に、石垣島北部の野底に生育するウミショウブ群落へのアオウミガメの食害について、エコツアーふくみみと野底小が協働実施している「ウミショウブ防衛プロジェクト」の進捗が報告された。

(2) やいま SDGs シンポジウムの開催報告

八重山ローカル SDGs 推進協議会の藤本委員より、石垣市の業務で、八重山 SDGs シンポジウムの開催状況が報告された。2020 年 9 月に初回を開催して以来、毎年 11-12 月頃に石垣島で開かれている。高校生を中心とした実行委員会が企画し、パネルディスカッション、ワークショップ、ゲーム大会などのイベントを通じて、地域循環共生圏の理念に基づく八重山の持続可能な未来について住民と議論する場となっている。今年の第 3 回目は 1850 人以上が参加し、教育、観光、環境などの分野別部会を設け、次世代につなげる具体的な取り組みを協議した。行政の支援なしで企業協賛を得ながら運営し、シンポジウムの収益金は地域の伝統文化保全などに寄付されている。

(3) 行動計画の見直しについて

事務局補助の沖縄県環境科学センターより行動計画見直し案の初稿について、環境省石垣自然保護官事務所の山本上席自然保護官より行動計画の重点項目について説明があった。参加委員の意見及び議論について、概要は下記のとおりである。

○ サンゴを取り巻く状況の記載

- ・ オニヒトデ大発生 of 要因について、一部誤解をまねく記載もあるので修正した方がよい(もっぱら赤土ではなく栄養塩が関係している)。

○ 重点項目 2 (持続可能な観光の推進)

- ・ 観光ガイドラインは最低限守ってほしいものとして示すのか、それとも認証のような+αの形で示すのか。これによって検討に加わるべき主体が変わるし、ガイドラインのレベルにも大きく関わる。竹富町が入っている理由はなにか。
- 石垣市、竹富町は特に重要なステークホルダーとして特出ししている。ガイドラインのレベルのイメージは、最低限守ってほしいところだと考えている。研究結果などをもとに、サンゴ礁のために望ましい行動をまず示していけるよい。
- ・ 子どもたちだけでなく、観光利用者にも石西礁湖の価値を示していくことも重要であり、重点項目 2 に含まれているとよい。
- ・ 西表のエコツーリズム全体構想における陸域、海域ルールの設定にあたっては、事業者さんが当初からかなり入り、ワーキンググループを作って案を作った。まずは協議会以外の方も入ったチームを作ること、現状での利用の仕方を把握する必要がある。
- チームについてはご指摘のとおりである。協議会には八重山ダイビング協会やマリンレジャー組合が入っており、ある程度はカバーしている。そういう中でチームを作り、現場の人と検討していくことを想定している。

○ 重点項目 3 (普及啓発の推進)

- ・ 普及啓発の推進というタイトルだと内容に対して大きすぎるので、サンゴ学習に絞るなども検討した方がよい。
- ・ 赤土問題など、サンゴ学習以外の学習もある。最終的にサンゴを守るといふかたちの文章に変えた方がよい。
- ・ 環境教育については、教員も対象として行ってほしい。
- ・ 学校の先生は非常に忙しいので、負担にならない範囲で取組の重要性、面白さを分かってもらえるよう工夫が必要である。